

正月廿九日

●東宮妃御冊立

△久邇宮良子女王殿下

春日麗らにて千代田の松に十返りの色いや深まる新年初頭に於て天皇皇后兩陛下には東宮の宮裕仁親王殿下の如殿下として久邇宮邦彦王殿下第一王女良子女王冊立の事に御内定あらせられ波多野宮相去る十四日豊橋なる十五師團に良子女王の御父君久邇宮邦彦王殿下に畏き御内意を言上したり右につき邦彦王同妃兩殿下には一月十六日御歸京相成り十八日の嘉日を以て宮中に御参内兩陛下に拜謁して親しく思召を受せられ爰に東宮妃御冊立の事全く御内定相成りたる次第なるが公然の御沙汰は何れ明春東宮御青年式御舉行後なるべしと承はる

▲才色双絶の御女性

御齡十六御體質殊にすぐれさせ給ふ

△近く學習院御退學の上特別の……

御教育を受け給はん▽

東宮殿下の妃宮定まり給へる良子女王殿に奉告し勅使を以て神宮、神武並に先帝先後の御陵に奉幣せしめらる

誕生今春三月六日満十五歳に達せらばく式後宮中御饗宴を行はせられ目下學習院中學科第三學年に御在次で神宮、神武御陵、先帝先後の御

御容姿御學問共に御優秀なるのみならず御體格の優れさせ給へるもまた各宮女王中第一と傳へらる今後の良子女王は學習院御退學一番町の御自體か若くは適當の場所に御教育は今より特別御教育申し上ぐべき必要あるこの二點に依りて取あつた御内定あらせられたる次第なりと由來東宮妃に昇るべき方は特定の華族即ち五攝家の令嬢か若くは皇族方の女王に殆ど極た慣例になり居れどものである、御婚姻即ち東宮妃御冊立の事は勅書を以て發せらるべく御式は賢所大前に於て行はせられ御册立の事は勅書を以て發せらるべく御式は賢所大前に於て行はせられ御册立の事は勅書を以て發せらるべく御式は賢所大前

御内定あらせられたる次第なりと由來東宮妃に昇るべき方は特定の華族即ち五攝家の令嬢か若くは皇族方の女王に殆ど極た慣例になり居れどものである、御婚姻即ち東宮妃御冊立の事は勅書を以て發せらるべく御式は賢所大前

▲御品格

音樂に御堪能

智子の妹宮をいたはらせられ奉る所である御両親に

君としての御心盡は女學部の職員達

は御自身で遊ばせ」といふ御教訓を

は御母宮殿下よりの「御自分の事

は御母宮殿下よりも拘はせられず

●大亂脈の浦港

浦港を占領する方針

帝國軍艦嚴として在り

在留邦人安堵す

一月十四日浦港より長崎に入港せる

露國義勇艦ベンザゴウ船客の談に曰く帝國軍艦は十一日午前九時入港し在留邦人は大に歡喜せり米國軍

名あり領事館は立退きに就ての布令を發したるが形勢は左のみ切迫し居

らず過激派は成るべく武力を用ひず

して浦港を占領する方針にて既に各機関の四分の三を占領し軍隊も砲兵

一聯隊同四聯隊は其手に屬したるか

歩兵三一、三二兩聯隊及び海軍は尙

は旗艦を鮮明にせず其向背如何に依

りて或は戦亂を惹起するに至るべし

と尙亞細亞商業銀行を除き露西亞帝

國其他の銀行は全部過激派の占領す

る所となり從來の貸出制限一日一人

一千弗を一週一人三百五十弗に縮少

せし爲め取引殆ど停止し一方昨今

は急轉直下大暴落を告げたり

▲シズマの如き

船の出帆當日浦港電信局を製つて金

品は悉く局長の

問題と云ふ威し文句に怖れ

△國際問題と云ふ

を爲して退却したさうである尙ほ在

十三日夜無事神戸に到着せり同船乗

浦諸銀行諸會社商店では彼等強盜團

組員は暗黒の巷と化せる浦港の近狀

云つても宜い程で常に國際問題との

襲撃を被らないものは殆どない

感無智の手合なれば外人云々との語

はねど云ふならば前自由意志に

して之れを強奪するやうな事あらば

はねど云ふならば前自由意志に

して之れを強奪するやうな事あらば

はねど云ふならば前自由意志に

して之れを強奪するやうな事あらば

はねど云ふならば前自由意志に

して之れを強奪するやうな事あらば

はねど云ふならば前自由意志に

して之れを強奪するやうな事あらば

はねど云ふならば前自由意志に

して之れを強奪するやうな事あらば

はねど云ふならば前自由意志に

ソーフレド フエーブレ テステ アンテ オンテン
sofre do febre desde ante-hontem.

こちらで話するのは何の誰某です。昨日から熱で苦しんで居る私の友人を見て戴きたいので此處まで御出を願ひ度ふ御座います

M. Está direito; logo mais, dou um pulo até ahi.

宜ろし。直ぐと其處へ参りませう (dou um pulo 一走りする)

M. (em casa do doente) Vamos, o que é que sente?
(病人の家で) さあ。如何悪いのですか

D. Não lh'o sei dizer exactamente. Mas tenho tido o febre ante-houtem e hoje, passando hontem sem febre. 恒かには分りませんが一昨日と今日熱が出ました。昨日は熱が出すに過しました

M. Não sentiu o frio antes desse febre?

うの熱の前に寒氣を感じませんでしたか

D. Sim, senhor; o febre vinha sempre depois do frio que me fez até tremer.
はいろうです。熱は何時でもがたゝ震はせる様な寒氣の後にやつて来ます

M. Isto não é nada. É o caso de febre intermitente.
オ senhor sara logo.

此れは何んでもありません。マリリヤ熱に罹つて居るのです。直ぐ癒ります

D. Então, é o mesmo que a maleita, não é verdade?
うれではマレイタと同じですね

M. Justamente.
ううですとも

文法

代名詞 (Pronome)

吾人が會話をしたり又は文章を書いたりする際に現はるゝ人物及び事物は總て次の種類の中。何れかに入るものである。

第一人稱 話掛くる人

第二人稱 話掛けらるゝ人即話相手

第三人稱 話題に上る人即第三者

此處に謂ふ人とは文法上の稱にして人稱の代りに用ひらる言語を人稱代名詞と云ふ。即ち人間は勿論人間以外の事物の代りをも爲す言葉である。が人間以外の動物や事物は話をすることが出来ぬ故第三者として人間の話に上る人と見做し第三人稱に入るものである。

人稱代名詞 主に人間の名前に代る言葉である故斯様に名付けられる。うして上に述べた三つの關係を基として人や物を指し示す語。即ち其代りを務むる語である。其代りをする場合を大別して次の二資格に分つ。

主格(何々又は何々はが)

第一人稱 單數 eu

従格(何々に。を等)

me, mim, migo

複數 nós

nos, nosco

第二人稱 單數 tu

te, ti, tigo

複數 vós

vos, vosco

第三人稱 單數 elle, ella

o, a, lhe, se, si, sigo

複數 elles, ellas

os, as, lhes, se, si, sigo

上表の外全然第三人稱の代名詞と見做す可き語及語句がある。即 voce, fulano, vosme, vossa mercé, vossa senhoria, vossa excellencia, vossa majestade, (或は sua majestade) sua senhoria, 尚ほ場合によりて

▲ 聖市出發の際黒石社長余輩に旅行

●耕地めぐり(三月廿二日)

第六信
これで一と先づ

▲豫定の旅行を終つて漸く昨廿一日リベロン市へ戻つた「奥さん又御厄介になりますよ」また黒くなつた初はんの程は「これでも獨り者ですよ」と針仕事をして居た明穂夫人は開口一番斯う云つて余輩の顔を覗き込が今ちや其んな氣はない。十五日目のカラは頸より赤く、髪は伸びて耳を掩ひ、されに形の壊れた麥藁帽云ふ其瞳を嬉しく見しも今は仇。何

んか情けない都人。
▲雨の中、珈琲の中、森の中。走馬燈の如く駆け廻つた大正膝栗毛には神で顔を拭く程の暇もなし「お顔を洗ひませ」田舎娘には洒れ過ぎた優言葉、「有難う」と刎ね起きて娘の姿を見送るやバチャ〜
水を叩いて然る後庭に捨てる。コハ軽便洗面法さて折角の厚意に報ゆる爲め音を以て彼女を安堵せしめる方法なり。知らずや余輩の目養は年を経て漸く貴し。洗ひ落してたまるものか。

▲大正膝栗毛或の耕地にて風呂攻めの難に遭ふ。如何様舊年來の垢を貰ひ肌身に迫る五衛門風呂決して心地悪しくはあらざれど、動いては大變到つて風呂桶腐敗し盡す恐れあれば喜多八、一夕にして都人の佑券を洗ひ落し翌朝日の出前に御禱を述べ出發す。

▲彌次郎兵衛なき喜多八の旅びは斯くて淋し乍らも多少の色香を添へて

▲豫定の旅行を終つて漸く昨廿一日リベロン市へ戻つた「奥さん又御厄介になりますよ」また黒くなつた初はんの程は「これでも獨り者ですよ」と針仕事をして居た明穂夫人は開口一番斯う云つて余輩の顔を覗き込が今ちや其んな氣はない。十五日目のカラは頸より赤く、髪は伸びて耳を掩ひ、されに形の壊れた麥藁帽云ふ其瞳を嬉しく見しも今は仇。何

んか情けない都人。
▲サンマルチーニヨより徒步にてサンタガブリエーラ耕地へ出たる栗毛には神で顔を拭く程の暇もなし「お顔を洗ひませ」田舎娘には洒れ過ぎた優言葉、「有難う」と刎ね起きて娘の姿を見送るやバチャ〜
水を叩いて然る後庭に捨てる。コハ軽便洗面法さて折角の厚意に報ゆる爲め音を以て彼女を安堵せしめる方法なり。知らずや余輩の目養は年を経て漸く貴し。洗ひ落してたまるものか。

▲大正膝栗毛或の耕地にて風呂攻めの難に遭ふ。如何様舊年來の垢を貰ひ肌身に迫る五衛門風呂決して心地悪しくはあらざれど、動いては大變到つて風呂桶腐敗し盡す恐れあれば喜多八、一夕にして都人の佑券を洗ひ落し翌朝日の出前に御禱を述べ出發す。

▲彌次郎兵衛なき喜多八の旅びは斯くて淋し乍らも多少の色香を添へて

用ヅツク製鞆を與ぶ。乃ち余は之れに用紙、狀袋、靴下、食パン其他を入れて肩にせり。一夜行き暮れてさる邦人コロニヤに着し暫く土間の

に用紙、狀袋、靴下、食パン其他を入れて肩にせり。一夜行き暮れてさる邦人コロニヤに着し暫く土間の

に用紙、狀袋、靴下、食パン其他を入れて肩にせり。一夜行き暮れてさる邦人コロニヤに着し暫く土間の

に用紙、狀袋、靴下、食パン其他を入れて肩にせり。一夜行き暮れてさる邦人コロニヤに着し暫く土間の

に用紙、狀袋、靴下、食パン其他を入れて肩にせり。一夜行き暮れてさる邦人コロニヤに着し暫く土間の

◎イグアペ地方巡遊記

gente, homem 等第三人稱代名詞となる。você, vossa senhoria, 等は事實上話掛けらるゝ人なれど文法上第三人稱に入るもどす。

註解 1. 從格の中。最後にあるものは必ず com と結び合ひ commigo, comnoso, comtigo, comvoso, comsigo (.....と一緒) と詰ふ場合にのみ用ひらる。

2. mim, ti, si, は常に前置詞に先き立たるゝ場合にのみ用ひらる例 a mim(私に); sem mim(私無しに), de ti(汝から)の如し。

3. r. s. 或は z にて終る動詞の次に第三人稱の從格 o, os, a, os の結付けらるる時は此等の語尾は何れももに代わらる。例 私がそれを作つた(又は爲した)は Eu fiz-o. と言はずに Eu fil-o. となるが如し

4. am, em, ão にて終る動詞の次に如上の o, os, a, as の来る場合は中間に n を挿むことを得。例 amam-o (彼等はうれを愛す), comem-a (彼等はうれを食する) と言はずに amam-no, comem-na と言ふことが出来る。

5. s にて終る動詞の次ぎに從格 nos, vos の来るときは動詞は s を失ふものとす。例へば levantamos-nos (吾々が起る), lembramos(吾々が想出す。記憶す)は levantamo-nos, lembramo-nos とせねばならぬ。

6. elle, elles, ella, ellas の前に de 又は em が置かるゝ場合には兩者合縮して delle, nella の如くなる。此場合(')は無くても可なり。

7. 代名詞の從格の重複する場合は次の如く合縮する。

me の次に o, os, a, as m'o, m'os, m'a, m'as
te の次に o, os, a, as t'o, t'os, t'a, t'as
lhe の次に o, os, a, as lh'o, lh'os, lh'a, lh'as
lh'es の次に o, os, a, as lh'o, lh'os, lh'a, lh'as
nos の次に o, os, a, as nol-o, nol-os, nol-a, nol-as
vos の次に o, os, a, as vol-o, vol-os, vol-a, vol-as

8. o, os, a, as, me, nos, te, vos, lhe, lh'es, se は動詞の次に来る場合は線(-)によりて相方を接合するのである。然し冠詞の o, os, a, as 及び em と os の合縮せる nos は全く異なる語なれば初學者は注意が肝腫である。

ブラジル語講習錄

Medico I (醫 師)

Doente. Eu me sinto bastante mal.

(病人)私は大變具合が悪い(sinto-me感じがする)

Amigo. O que é que tem? (友人)如何したんですか

Obrigado. Estou agradecido. (感謝)

D. Hoje estou peor que hontem e parece-me que tenho

bastante febre.

今日は昨日より悪い。ろして熱が可なりある様に思はれる

A. É bom que consulte o medico. Coitado!

医者さんに診察して貰ふのが宜い。可愛想に

B. Faça favor de chamar o medico para mim.

何卒私に医者さんを呼んで下さい。

C. Como não; vou chamá-lo agora mesmo pelo telephone.

宜しいとも。今直ぐ電話で呼んであげやう

D. Tenha a bondade.

どうぞ御願ひです。

E. (ao Centro) Faça favor de me ligar à casa do Dr

Fulano?

(交換局に向ひ)何某醫師の家へ通して下さい。

Promoto. Quem fala?

Medico. Prompto. Quem fala?

モシモシ。ごなですか

Quem fala aqui é o Fulano de Tal; peço ao doutor

uma visita até aqui para ver um amigo meu que

